特別企画

柴田先生を偲んで

Commemorate the deceased Dr. Shibata

ミクロ電子株式会社　山中 亨
〒352-0011 埼玉県川越市芳野台 2-8-25,
e-mail: yamanaka@midrodenshi.co.jp

1. はじめに

柴田先生と弊社のつながりは、創業者村山会長との絆によって今日の会社発展の基礎となったと言っても過言ではありません。弊社が事務局をしていた日本電磁波応用研究会の発足から日本電磁波エネルギー応用学会に合流するまで、数多くの講演と発展にご尽力いただきました。また、弊社創業 30 周年式典(2003 年)では暖かいご祝辞をいただき、弊社の発展の礎になりました。今回の投稿にあたり当時の祝辞をご紹介させていただきます。

２．ミクロ電子 30 周年式典での祝辞

まずはおめでとうと申し上げたい。社長の村山さんをはじめとして、社員の皆様方の努力の賜であると思うのである。ミクロ電子の創立される前には、日本電子㈱とお付き合いが深く、マグネトロン等のマイクロ波管を主として加熱に利用していただいたが、やがて昭和４８年に日本電子の技術者が中心となってミクロ電子が創立され、マイクロ波加熱の仕事はミクロ電子が中心になった。それ以来、同社が一貫してマイクロ波加熱を中心業務として続けて来たが、最初に手がけたのがゴム製品の加硫であった。同社はこの方面でトップメーカーとなったが、これが同社の現在の基礎を築いたと言っても過言ではない。私がマイクロ波加熱の本を出したときにも、ゴム製品への応用の項は、ほとんどすべて村山さんにお願いしたのであった。マイクロ波加熱のような特殊な技術は誰かが本気で進めないと続くものではない。アメリカでも大会社はほとんどすべて手を引き、中規模の会社が専門に進めているが、これはトップ（社長・会長など）が責任と興味を持ってこの方向を進めているからである。我国においても同様で、大会社ではこの方向を育てることが出来ず、多くの会社がこの仕事から離れ、今やミクロ電子がトップメーカーになっている。発展はこれからである。私は、更に多くの工業的利用が世の中で行われると思っている。自信を持ってこの道を進めて行かれることを心から期待する。

３．おわりに

ミクロ電子は様々な方のご支援、ご指導により発展して参りました。柴田先生はまさにその中心的な指導者として今日まで支えてくださいました。今後も、更にマイクロ波業界の発展のために、柴田先生の「マイクロ波加熱のような特殊な技術は誰かが本気で進めないと続くものではない」という言葉をしっかりと受け止め前に進む所存でございます。